

(様式例)

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業内容に精選により、生徒の興味・関心を深め、主体的に学習する生徒が増えた。
- ・授業の学習課題を明確にし、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ・ペアワーク・グループワークを取り入れ、他者との関わりの中で自分の意見を表現して自分の考えを広げることができた。

(2) 課題

- ・生徒によって知識・技能の定着に差がある。
- ・地図、年表、雨温図、統計など様々な資料を観る視点の習得が不十分で資料の読み取りを苦手とする生徒が一定数いる。
- ・自分の意見を言語化することを苦手とする生徒が一定数いる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値より若干下回っている。		
第2学年	目標値、区の平均、全国の平均ともに下回っている。全国平均に比べて「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに値が低い。問題は選択・記述問わず低い傾向がある。	目標値、区の平均、全国の平均ともに下回っている。特に「思考・判断・表現」の値が低い傾向にある。	
第3学年	「地理分野」の項目以外は目標値、区・全国平均ともに上回っている。	目標値、全国平均ともに下回っているが、区の数値の方は、上回っている。 (第2学年時)	達成率は上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりもやや下回っている。	目標値よりも上回っている。	短答式ならびに記述式の問題への取り組みに課題がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均、全国の平均よりも下回っている。	区の平均、全国の平均よりも下回っている。	記述する問題の正答率が目標値と比べてかなり低い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区・全国平均よりも上回っている。	区・全国平均よりも上回っている。	どの問題にも意欲的に取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
概ね数値は良いが、短答や記述の問題については、低い傾向がある。正しい知識の活用方法の指導が必要である。	知識・理解の場合と同様の数値なので、各テストなどにより資料などをもとにして記述に取り組む比重を増やす。	教科が嫌いな生徒を増やさないように、興味や関心を引くような授業改善に取り組む。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的分野・地理的分野ともに知識・技能を伸ばしていく必要がある。 授業内容の要点をまとめ、授業内で定着させるべき知識や技能を明確にする。また、単元テストを実施し自分の苦手とする分野を明らかにして学習内容の定着につなげていく。 単元ごとに授業の振り返りシートを使い、授業の中で何を学び・身に付けたのか確認する活動を設ける。	歴史的分野・地理的分野ともに思考・判断・表現を伸ばしていく必要がある。 記述式や知識を活用する問題に対して苦手意識を持っている生徒が分析で判明したので、授業内で資料を観る視点を身に付け、その視点をを用いて資料の読み取り、読み取ったことをもとに問について考える活動を設ける。また、考えたことを表現する機会を設け、思考・判断・表現力を伸ばしていく。	授業で達成すべき目標を提示す。単元ごとに授業の振り返りシートを使い、授業の中で何を学び・身に付けたのか確認する活動を設ける。 また、学習内容に対して疑問に思っていること、興味を持ったことなど調べまとめる活動を取り入れ、学習内容と現代社会とを結びつけて、主体的に学ぶ機会を設ける。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎の問題に課題があることがデータからもわかっているため、授業において前時の復習をする時間をさらに丁寧に行うなど、基礎・基本となる学力の定着を目指す。	記述問題に苦手意識をもっている生徒が多く見受けられるため、グラフや写真などの資料を基に考える時間を設けて、資料から読み取り考えたことを表現する活動を取り入れる。	授業のねらいを疑問文で提示する。、毎時の授業で何を学んでいるのか、到達目標はどこかを生徒が明確に理解させることで、学習意欲を高めたい。

